

勝つ組織集団を目指して

株式会社 IHI 執行役員
高度情報マネジメント統括本部長

菅 泰三
Suga Taizo



はじめに

IIC のみなさん、こんにちは。IIC REVIEW 50 号発行おめでとうございます。

さて、ご存じのとおり本年4月に「ヨコ串を刺す」ことにより「つなぐ」を実現し、グループ全体の力を向上させるという発想で3つの組織が IHI にできました。そのうちの1つが高度情報マネジメント統括本部というやや長い名前の組織です。(略称は「高マネ」としてしています。) 本社組織として体制を構築し始めてまだ僅か4ヶ月ですが、具体的に展開しつつあり、今後この展開内容をさらに拡大、レベルアップしてゆくということがミッションになります。

もう少し詳しく

高マネの組織の中には3次元レーザーレーダーを主としたセキュリティ事業というタテの部門もありますが、ヨコ串機能としてやろうとしていることがらは以下の通りです。

1. まず、IHI グループの製品に対してセンシングや ICT の適用を拡大してゆくというものです。

情報システム部や技術開発本部との連携を十分に取りながら進めてゆきます。

2. 次に制御システムとリモートメンテナンスの共通プラットフォームを作り、実際の受注製品に搭載してゆくことにより当社グループの製品競争力をアップさせるというものです。機械とは別に制御等の部分で勝負するというものです。また機械の運転から得られるデータを分析して予防保全をより効率的に行い、お客さまからの評価を高めてゆくことも目指します。プラントのような大きなもの向けには個別システムの高度化を進めてゆくこととなります。

これらは他社もやっていることですので当然に競争を意識して取り組む必要があります。

3. これらの目的のために必要なソフト、ハードの内製化に取り組み、一定のブラックボックス化を目指しつつ、お客さまからの技術の開示要求にも答えられるという工夫をします。

世の中を見る

私は本年3月末までの3年間 IHI の新事業推進部に在籍しておりました。その間、いくつかの新

事業テーマで IIC の多くの方々に開発や事業化に向けた検討を一緒になって取り組んでいただきました。大変感謝しています。

その3年間において各テーマの技術を追求することは別に「誰かが既にもうやっているのでは。」と潜在的な競合の有無、動きに注意を払ってきました。痛感しましたのは特例を除いて新事業といえどもおよそ複数の競合がいるものだという事です。加えて競合が私たちの数歩先を歩いていることも結構多いという印象です。

センシングや ICT、制御の世界も世の中、競合の動きを注視してゆくことが必要だと思っています。この世界に詳しい人によれば、例えばアメリカの GE の取り組みが抜きんでているようで GE は「Industrial Internet による革命が進んでいる」として、機械とセンサー、制御、ソフトをいかにつなぐかがポイントだと述べているそうです。この指摘は今私たちがまさに取り組もうとしていることに近いのですが、彼らの実際の展開を目を凝らして見てゆく必要があると思います。M&A やアライアンスを含めて腰の入った進め方をしているようです。

IIC のみなさんをお願いしたいこと

技術や知見を磨き、深めてゆけば競合他社の技術や動向も正確に評価できると思います。

IIC のみなさんは日々検査・計測をはじめとする「現場」で IHI グループの製品や他社製品の良否等をよくみておられると思います。お客さまの声も聞かれていると思います。それらのことを是非私たちにフィードバックしていただきたいと思います。皆さんが把握されたことを高度情報マネジメントの視点から生かすことが IHI グループを「勝つ組織集団」にしてゆく、あるいは冒頭述べたミッションを遂行してゆくための確かな方法ではないかと思うからです。

高マネのヨコ串機能を担う IHI グループとして昨年からはメンバーになってもらった明星電気株式会社、IIC の関連会社である高嶋技研株式会社のみなさん、そして高マネの私たちと一緒に「勝つ組織集団づくり」を展開していただきたいと思っています。